

令和4年度
事業報告書

社会福祉法人息吹

令和4年度社会福祉法人息吹事業報告

《総括事項》

1 人員体制の確保について

新型コロナウイルス感染症に伴う不況下でかつてないほどの雇用悪化が社会問題となっているなか、介護福祉業界における人手不足はかねてから特に厳しい状況が長期化しており、法人においても常に求人の取組みを緩めることができない。現在の法人の人員体制においては、定員を満たす状態を維持してはいるものの、資格を所持する職員の割合が低いことが課題となっている。今後も長く働きやすい職場づくりに向けて粘り強く職場定着策を充実することが重要である。

2 利用者の減少について

法人が運営する日中活動系事業所全般において、利用者が減少している。一般就労が実現したり、体調不良で通所が安定しなかったり、入院で契約解除せざるを得なくなったり、理由は多岐にわたっている。

今年度はグループホームにおいても、3名の退去があったため、早期に満室を実現できるように法人事業所の利用者以外にも対象者を広げて、積極的に取り組む必要がある。

3 利用者及び家族の高齢化について

少子高齢化の影響は、精神障害者の日常生活と社会生活に多様な問題となって表れている。当法人が事業運営のなかで認識している課題としては、精神障害当事者本人の高齢化、家族の高齢化によって家族が担えなくなった本人への支援体制の変化、逆に家族の高齢化によって家族への家事や介護などを本人が担うことの負担や不安の高まりの3点に整理できる。

こうした課題への対応としては、本人や家族のニーズに基づきながら、障害福祉サービスだけでなく高齢福祉サービスや民生委員児童委員、その他の地域のインフォーマルサービス等を活用しつつ、成年後見制度を始めとした権利擁護の制度も含めて柔軟に取り組んでいく必要がある。

《事業別報告》

1 理事会・評議員会開催状況

(1) 理事会開催状況(全3回)

第1回理事会(全議案を同日可決、承認)

開催日時: 令和4年6月6日(月)

第1号議案 職員給与規程一部改正の件

第2号議案 令和3年度社会福祉法人息吹事業報告及び決算並びに職務執行
状況報告の件

第3号議案 令和4年度定時評議員会招集通知記載事項の件

報告第1号 施設長選任の件

第2回理事会(全議案を同日可決、承認)

開催日時: 令和4年11月28日(月)

第4号議案 就業規則全部改正の件

第5号議案 非常勤職員就業規則制定の件

第6号議案 継続雇用規程制定の件

第7号議案 就業規則全部改正に伴う関連規程一部改正の件

報告第2号 法人運営及び施設運営に係る自己点検・自己評価の件

第3回理事会(全議案を同日可決、承認)

開催日時: 令和5年3月20日(月)

第8号議案 経理規程一部改正の件

第9号議案 役員賠償責任保険契約の件

第10号議案 令和4年度補正予算(案)及び職務執行状況報告の件

第11号議案 令和5年度事業計画(案)及び予算(案)の件

(2) 評議員会開催状況(全1回)

定時評議員会

開催日時: 令和4年6月21日(火)

第1号議案 令和3年度社会福祉法人息吹事業報告及び決算の件

2 地域交流啓発事業及び全体事業

- 5月 ガレージセール
- 7月 息吹交流会(もみじの家 焼きそば等)
- 10月 箕面まつり出店
- 11月 ハートパーク(萱野北小学校ワークショップ)
- 2月 おもちつき(もみじの家 息吹地域交流会)
- 3月 ハートパーク(萱野北小会館 学習会「こころの病気の基礎知識」)

3 ボランティア・見学・実習の受入れ

(1) ボランティア・見学・実習の受入れ状況

ボランティア受入れ延べ人数	38人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	12人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	30人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	36人

(2) 主な見学及び実習の受入れ機関等

精神保健福祉ボランティアこころの会、大阪バイオメディカル専門学校、
大阪健康ほいく専門学校

4 会議への派遣

- ・箕面市保健医療福祉総合審議会
- ・箕面市障害者市民施策推進協議会
- ・箕面市地域自立支援協議会運営会議
- ・箕面市地域自立支援協議会相談支援部会
- ・箕面市地域自立支援協議会地域移行・定着支援部会
- ・箕面市地域自立支援協議会権利擁護部会
- ・箕面市地域自立支援協議会障害者就労系通所事業所 情報交換会
- ・箕面市生活困窮者自立支援事業推進協議会
- ・(社福)箕面市社会福祉協議会評議員会
- ・(社福)あかつき福社会評議員会
- ・(社福)あかつき福社会 グループホーム運営委員会
- ・(財)箕面市障害者事業団採用検討委員会
- ・(財)箕面市障害者事業団理事会
- ・(財)箕面市障害者事業団評議員会
- ・(財)箕面市障害者事業団自主事業運営委員会
- ・大阪精神障害者地域生活支援連絡協議会
- ・箕面市社会福祉法人連絡会

5 職員研修実施状況

(1) 職場研修

- ・公正採用選考人権啓発推進委員研修

(2) 主な参加研修

① 資格取得研修

- ・サービス管理責任者研修

② 業務能力開発のための研修

- ・行政書士が伝える現場で役立つ成年後見制度と死後の手続きセミナー
- ・権利擁護部会講演会「暮らしと財産を守る成年後見制度」

③ 人権問題及びその他の研修

- ・人権啓発学習会知ってほしい障害者の生活
- ・みのお市民人権フォーラム「誰もが安心して暮らせまちづくりをめざして」
- ・ひきこもりを考える～相談から見える本人の言い分・家族の言い分～
- ・大阪府長期入院精神障がい者退院支援強化事業「精神科病院職員研修」

パオみのお(相談支援事業)事業報告

1 概要

計画相談について、困難事例を中心に新規受任作成件数を増やすことが求められている。

地域移行支援について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、取組みを進めることが難しい状況が続いた。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 指定特定相談支援事業（計画相談）

「サービス等利用計画」については、パオみのおが箕面市委託相談事業所であることから、困難事例を中心に新規受任作成件数を増やすことが求められている。

計画相談支援の終了件数が、新規受任件数を上回った。終了の理由については、通所系サービスや居宅介護などの障害福祉サービスの利用をやめたケースが最も多く、他自治体への転出、介護保険移行、施設入所が続いている。

(2) 指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）

箕面市地域自立支援協議会地域移行部会における精神科病院と連携した地域移行支援に係る院内説明会等の取組みについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかった。

入院が長期化しないように、院内寛解の患者について、退院後の家探し、日中活動や障害福祉サービス等の調整を行ったケースはあるものの、地域への移行の実現には至らなかった。

(3) 委託相談支援事業（箕面市地域生活支援事業）

箕面市の委託相談支援事業所として、精神障害者の困難事例への対応件数を増やすよう求められている。障害福祉サービスを利用することで生活の質の向上が見込まれるものの、様々な理由でサービス利用に至らないなど、対応が困難な事例が増えている。

3 今後について

(1) 指定特定相談支援事業（計画相談）

困難事例を中心に新規受任件数を増やすよう求められていることについては、職員体制を確保するとともに、職員の相談スキルの向上に向けた育成体制

を充実させる必要がある。

(2) 指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）

個別支援や地域の体制整備について、大阪府地域精神医療体制整備広域コーディネーターや自立支援協議会地域移行・定着支援部会と連携した支援を行うとともに、引き続き部会における検討を行う。

(3) 委託相談支援事業（箕面市地域生活支援事業）

困難事例への対応については、引き続き箕面市基幹相談支援センター等と連携して支援に当たるとともに、職員研修等による能力強化と連携強化に努める。障害福祉サービスが必要であるにもかかわらず、サービス利用に至っていない障害者への支援については、柔軟に利用が可能な地域活動支援センターを活用することで対応していく。

4 主な活動実績

(1) 計画相談支援事業(指定特定相談支援事業) (単位:件)

	4年度	3年度	前年度比
サービス等利用計画作成	60	81	74.0%
モニタリング	320	288	111.1%

(2) 地域相談支援事業(指定一般相談支援事業) (単位:件)

	4年度	3年度	前年度比
地域移行支援	0	4	0%
地域定着支援	0	0	-%

(3) 相談支援事業実績(箕面市地域生活支援事業) (単位:件)

	4年度	3年度	前年度比
相談支援	2,642	3,101	85.2%
生活サポート	30	26	115.4%

パオみのお(地域活動支援センター)事業報告

1 概要

新型コロナウイルス感染対策が徐々に緩和されるのに伴って、少しずつ元の活動に戻ってきたが、サロン利用者数は逆に減少した。

サロンで過ごすことが難しい利用者を対象にしたグループワークの利用者数は、堅調に推移している。

2 特筆すべき事項と課題

- (1)新型コロナウイルス感染拡大の影響で、全ての当事者活動が中止となっただけでなく、地域活動支援センターとして実施している定例のレクリエーション活動も感染対策上問題がある場合は中止する状況が続いた。
- (2)サロンで過ごすことが難しい利用者を対象に実施してきたグループワーク事業については、2つのグループともに月2回の活動が定着している。

3 今後について

- (1)多様化する利用者ニーズに対応するため、内部研修の実施や外部研修の積極的活用により職員育成に努める。
- (2)グループワーク事業については、2つのグループそれぞれの雰囲気に参加しやすいものに醸成して、さらに充実させることが重要である。
- (3)新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ5類に移行することとなるものの、感染防止をしつつ、サロン利用やレクリエーション活動の内容変更や規模縮小など、必要に応じて柔軟な対策を継続する必要がある。

4 主な活動実績

(1)当事者活動支援 0人(0人)

魁スポーツ推進振興クラブ、カメカメクラブ、カチカチクラブ等は新型コロナウイルス感染拡大の影響により休会中

(2)レクリエーション活動 91人(128人)

花見散歩、魚釣り、みかん狩り、カフェ

※新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止した活動(日帰り旅行、外食、ショッピングツアー、茶話会、DVD鑑賞会、焼肉パーティー等)

(3) 独自事業

① グループワーク事業	延利用者数	117人(113人)
② 食事作り事業	延利用者数	275人(382人)
③ 送迎事業	延利用者数	7人(53人)

※(カッコ)内は昨年度実績

5 利用者状況

(1) 利用実績

	4年度	3年度	前年比
延べ利用者数	2,412人	3,092人	78.0%
開所日数	305日	306日	99.7%
1日あたり平均利用者数	7.9人	10.1人	78.2%

(2) 登録者数

令和5年3月31日現在(単位:人)

	4年度	3年度	前年比
男性	179	177	101.1%
女性	145	146	99.3%
合計	324	323	100.3%
新規登録者数	5	13	38.5%

(3) 障害種別

令和5年3月31日現在(単位:人)

	登録数	精神	身体	知的	発達	高次脳
男性	179	157	1	10	10	1
女性	145	137	0	3	4	1
合計	324	294	1	13	14	2

かたばみ寮(共同生活援助)事業報告

1 概要

年度後半に3名の退去があったため、年度末には3室の空室が生じる結果となった。来年度には、新規入居の促進に取り組む必要がある。

また、入居者の高齢化に伴って、生活習慣病の治療や予防、認知機能の低下に対するケアが重要になってきている。

2 特筆すべき事項と課題

- (1) 新たな入居者が、グループホームでの生活ルールに自然に馴染めるように、見守りや声掛けの支援を重要視するとともに、安定した生活と日中活動への参加をめざすことができるように、それぞれに合ったペースで促している。
- (2) 個別支援計画については、年に1度の計画作成と半年に1回のモニタリングを行っている。昨年度に引き続き、日中活動先の就労継続支援B型事業所及び地域活動支援センターとの連携強化を図りつつ計画を作成するよう留意した。
- (3) 利用者の障害種別について、精神障害だけでなく知的障害、発達障害、認知レベルの低下など多様化しているとともに利用者の高齢化も進んでいる。入居者同士の関係性やマッチング等の理由で、居室において安心して過ごし難くなり家族がいる実家で過ごす時間が増えている利用者もいる。
- (4) 長年勤務してきた職員が退職し、配置基準を満たすために人員体制を補充したが、こうした新陳代謝によって、利用者の生活に不安が生じないように、職員間で情報共有やスキルを向上してフォローし合うことが重要となっている。
- (5) 利用者2名に新型コロナウイルス感染症の陽性者が生じ約10日間を住居において療養することとなり、職員が個人防護具を着けて、ゾーニングやバイタルチェック等の対応をした。これまで実施してきたゾーニングのシミュレーション、防護服などの個人防護具の着用訓練などの備えが効果的だった。

3 今後について

- (1) 個別支援計画の目標に達していない利用者へのアプローチを関係施設、関係機関と連携をとりながら強化する。
- (2) 障害種別の多様化と利用者の高齢化により、支援力の向上・強化が求められている。人員体制の新陳代謝に伴って配属される新たな職員については、特に内部研修の実施や外部研修への参加を積極的に行っていく。
- (3) 新規入居者の募集について、早期に満室を実現できるように法人事業所の利用者以外にも対象者を広げて、積極的に取り組んでいく。入居者同士のマッチングがどうしても円滑に運ばない入居者については、サテライト型住居など多様な手

法を検討する必要がある。

4 利用者状況(令和5年3月31日現在)

①利用者数(単位:人)

	定員	利用者
かたばみ寮	2	2
第2かたばみ寮	4	3
ぶなの木荘	5	4
第2ぶなの木荘	3	3
合計	14	12

②利用者の特性

平均年齢	54.4 歳	
平均在籍年数	9 年 8 か月	
障害支援区分	区分 2	1 人
	区分 3	5 人
	区分 4	6 人

③利用者の日中活動先(単位:人)

もみじの家	5
あっとほーむ	2
シェスタ	1
就労	1
その他	3

生活介護もみじの家事業報告

1 概要

日中活動プログラムについては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により一部プログラムの中止や内容変更があった。

延べ利用者の増加に向けて、多様な障害に合わせて取り組める生産活動の開拓と、魅力的で参加しやすい日中活動プログラムの拡充が重要となっている。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 日中活動支援

日中活動プログラムについては、週1回のミーティングにおいてプログラム内容を丁寧に説明したり、利用者の発案を促すなど、利用者が主体となって活動内容を決定できるように努めた。

個別支援計画を作成し、年2回の定期面談を通して具体的な目標や取り組みを検討した。その結果、利用日数の増加、より長時間の利用につながるなど活動意欲の向上につながった。

かつてのような工賃収入が見込めないなか生活介護事業所としてどのレベルまで工賃向上を追求するのか、また、新型コロナウイルス感染拡大防止で中止や縮小されたプログラム活動をどのように復旧させるのかといった課題がある。

(2) 地域生活支援

利用者が居住の場から安心して通所するための送迎サービスについて、利用ニーズが増えていることから、送迎ルート調整と送迎体制(車両及び職員体制)の確保に努め、往路送迎にあっては送迎車両2台を2回転する4便体制となっている。

日常生活において保清が苦手な利用者を対象とした入浴サービスについて、夏季には特に多くの利用があり好評であった。

(3) その他

利用者の体調改善や通所しやすさが向上したものの、利用者数名が他事業所へ移行したり、施設入所したり減少したため、延べ利用者数は減少した。新型コロナウイルス感染拡大の影響でプログラムの中止や変更を余儀なくされたが、規模を縮小して実施するなどし、利用者の満足度向上につなげることができた。

利用者2名が新型コロナウイルス感染症の陽性となったため、自主的に1日間閉所し感染拡大に備えた。その後も手指の消毒や黙食など感染対策強化に努めたため、これ以上の感染拡大には至らなかった。

3 今後について

生活介護事業所としての役割を意識した日中活動プログラム内容の充実を図るとともに、生産活動については、箕面市指定ごみ袋製袋作業と並行して、さまざま

な障害に合わせて従事できる多様な軽作業の開拓を検討する。

延べ利用者数が減少傾向にあるため、パオみのお等の相談支援事業者や関係機関と連携してPRするなど新規利用者を増やす取り組みが必要である。

4 主な活動実績

(1) 就労支援事業

① 主な就労支援事業収入

事業内容	4年度	3年度	対前年度比
受託事業(箕面市ごみ袋製袋)	1,260,835 円	949,621 円	132.8%
その他(自主製品等)	487,179 円	798,191 円	61.0%
計	1,748,014 円	1,747,812 円	100.0%

② 利用者一人当たりの月額平均工賃額

4年度	3年度	対前年度比
7,897 円	6,917 円	114.2%

(2) 日中活動プログラム

① 主な日中活動プログラムの活動実績

プログラム	年回数	概要
作業	255 回	箕面市指定ごみ袋製袋、ライフプラザごみ回収、もみじの茎切りなど
ミーティング	51 回	プログラム内容及び施設利用ルールなどについて、利用者に説明したり意見を出し合ったりする。
運動	34 回	稲スポーツセンター等の運動施設やもみじの家において、バレーボール・バスケットボール・卓球・ポッチャ等に親しむ。
調理実習	23 回	ボランティアグループこころの会と利用者が調理し食事する。
健康教室	22 回	医師及び看護師による健康相談（血圧、脈拍など）及び健康知識の講習会など。
フリータイム	14 回	利用者が企画する活動などで自由に過ごす。
図書館散策	12 回	市立図書館で各々の関心に応じた本を探すなど散策する。
お菓子作り	12 回	簡単に作れるお菓子を食材調達して楽しく作って食べる。
映画鑑賞	11 回	DVDによる映画鑑賞をして感想文を書く。
外出、ドライブ	9 回	公共施設や大型ショッピングモールなどへ出掛けて散策する。
もみじカレッジ	8 回	漢字、算数、地理、英語などを職員と楽しく学ぶ。
ゲーム	7 回	カードゲームやボードゲームなどを楽しむ。
ガーデニング	7 回	プランター栽培で野菜を作って収穫する。（もみじ菜園）
散歩	4 回	みのおキューズモールや滝道まで歩いて散策する。

※上記の他に、地域清掃(2)、避難訓練(2)など。

②ボランティア・見学・実習参加状況

ボランティア受入れ延べ人数	38人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	5人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	17人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	17人

(2) その他の活動

- ①施設外活動(市内お祭りへ出店参加)
- ②啓発活動(精神障害者理解促進事業ハートパーク、おもちつき)
- ③息吹交流会

5 利用者状況

(1) 利用実績総括表

令和5年3月31日現在

項目	4年度	3年度	対前年度比
利用契約者数	21人	22人	95.5%
平均年齢	52.9歳	52.3歳	+0.6歳
稼働日数	※245日	243日	100.8%
延べ利用者数	2,753人	2,907人	94.7%
1日平均利用者数	11.2人	12.0人	94.3%

※コロナ感染により1日間閉所した。

(2) 障害者福祉手帳所持状況

令和5年3月31日現在(単位:人)

	利用者数	1級	2級	3級	B1	B2	なし
男	15	1	10	1	2	1	0
女	6	0	6	0	0	0	0
合計	21	1	16	1	2	1	0

(3) 障害支援区分の状況

令和5年3月31日現在(単位:人)

	利用者数	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5
男	15	0人	2人	5人	7人	1人
女	6	0人	1人	4人	1人	0人
合計	21	0人	3人	9人	8人	1人

就労継続支援B型あっとほーむ事業報告

1 概要

個別支援計画において具体的な目標や取り組みを検討し、年2回のモニタリングを通して検証するとともに、関係機関との連携により生活及び就労に係る支援を実施した。

職員の職場定着、もみじの茎切りの委託販売店変更に伴う新仕様に対応した作業提供、配食サービス配達業務の受託事業所の契約解除に伴う配達業務体制の変更が主な課題となっている。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 就労支援事業

工賃向上について、利用者数と延べ利用者数が前年度よりも減少したが、利用回数を増やす利用者もあり配食サービスの売上を前年度と同程度に確保できたため、利用者一人当たりの月額平均工賃額が3千円(約1割)以上増加する結果となった。

もみじの茎切り受託作業について、年度途中で委託元販売店を変更して、シエスタを経由した受託に変更することとなった。委託元は変わっても、利用者にとって馴染みのもみじの茎切り作業を続けられており、円滑に取り組むことができた。

工賃と作業に対する利用者の満足度に関して、1階調理室での調理作業と、2階での事務作業などその他の作業があるなかで、調理作業の方が作業量も体力的負担も多いという意見が多く出たため、全ての利用者へのアンケート調査を行った。個々の利用者の特性や希望に沿って作業を選択できるよう配慮が必要である。

配食サービス配達業務の受託事業所の契約解除について、後任の事業所が見つからず業務委託を継続することができなくなっている。

(2) 個別支援計画

個別支援計画の作成や年2回のモニタリング及び随時の面談を通じて具体的な個別の支援を行った。成果としては、利用者の意思を尊重した短期目標の設定と課題達成のための取り組みを行うことにより、職業準備性の向上がみられ、企業や協力機関での実習に取り組めるよう促していく。また、計画作成の過程で関係機関との連携が広がった。

(3) その他

退所した利用者は2名あり、体験と実習を経て利用開始したが体調不良や家族

の問題などが理由で安定した利用につながらなかった事例が4件あった。

3 今後について

就労支援事業について、効率的かつ効果的な事業運営をめざして、必要に応じた業務改善に努め、利用者の生活安定や就労のステップアップに資する事業体系を構築し続けていく必要がある。また、より地域に根ざした活動を行っていきけるよう、地域住民との交流を図り、地域のニーズを把握しつつ、事業経営を進めていく。

新規の利用者については、積極的に受け入れを行いながら、安定した利用につながるように、関係機関と支援方針を検討するなど連携を図っていく。

職員の職場定着に向け育成を行い、サービスの質の向上に努めていく。

配食サービス配達業務委託については、委託先事業所が見つかるまでは、利用者と職員による通常配達の分担を変更して対応する。

作業工程については、1階調理場で行ってきた仕込み作業の一部を2階でも行えるようにしたり、2階で軽作業にあたる利用者が食器の洗い物を率先して行うなど、役割分担を整理することで、工賃向上へ向けて全員で取り組めるようにしていく。

4 主な活動実績

(1) 就労支援事業

① 主な就労支援事業収入

事業内容	4年度	3年度	対前年度比
配食サービス事業	15,687,381 円	15,616,339 円	100.5%
自動販売機管理	105,933 円	140,165 円	75.6%
受託事業(もみじの茎切り)	106,750 円	27,250 円	391.7%
自主製品事業(ビーズ・陶芸)	0 円	0 円	-%
その他(印刷など)	113,120 円	115,420 円	98.0%
計	16,013,184 円	15,899,174 円	100.7%

② 利用者一人当たりの月額平均工賃額

4年度	3年度	対前年度比
25,242 円	22,390 円	112.7%

③ ボランティア・見学・実習参加状況

ボランティア受入れ延べ人数	0 人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	5 人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	7 人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	15 人

(2) その他の活動

- ①施設外活動(箕面まつりへの出店参加)
- ②啓発活動(精神障害者理解促進事業ハートパーク、おもちつき)
- ③余暇活動(あっとほーむ忘年会、新年会、茶話会、外出レクなど)
- ④専門指導研修(調理師による利用者向け・職員向け講習会)
- ⑤息吹交流会

5 利用者状況

(1) 利用実績総括表

令和5年3月31日現在

項目	4年度	3年度	対前年度比
利用契約者数	25人	29人	86.2%
平均年齢	47.7歳	48.8歳	▲1.1歳
稼働日数	246日	※239日	102.9%
延べ利用者数	3,181人	3,348人	95.0%
1日平均利用者数	12.9人	14.0人	92.1%

※コロナ感染により3日間閉所した。

(2) 障害者手帳所持状況

令和5年3月31日現在(単位:人)

	利用者数	2級	3級	A	B1	B2	なし	重複
男	13	9	3	0	1	0	0	0
女	12	4	3	1	1	3	1	1
合計	25	13	6	1	2	3	1	1

就労継続支援B型シェスタ事業報告

1 概要

就労支援事業については、新型コロナウイルス感染が落ち着いてきたことで、販売先も再開できるところが増えてきた。新商品を増やしたこともあり昨年度と比べて収入面では微増することができたが、原材料の高騰で利用者一人当たりの月額平均工賃が減少した。また、祭りやイベント等が再開されたことで、稼働日数も増えたが、通所が安定しない利用者が多く平均利用者数は減少した。

今後も就労支援事業において、新商品を増やすなどして売り上げを伸ばすことや利用者の新規契約者増加に向けた対策が必要である。

利用者の支援に関しては、個別支援計画を作成し、年2回のモニタリングをすることによって具体的な目標や取り組みを検討し、効果的な就労支援の提供に努めた。

2 特筆すべき事項と課題

(1) 就労支援事業

販売先については、新型コロナウイルス禍前の状態に向けて、さらなる販売再開の調整を行うとともに、新規販売先の拡大に取り組む必要がある。

また、利用者減少に伴い、焼き菓子製造作業に負荷がかからないよう工夫が必要である。

(2) 個別支援計画

利用者個人の面談を通し、個別支援計画の作成と年2回のモニタリングを行い、具体的な個別の支援を行った。このことによって、短期的な目標設定と利用者の意思確認を行い、他機関への実習や見学、関係機関との連携強化といった成果につながった。モニタリング以外でも、都度必要に応じて面談等を行い、利用者の日常生活の悩みの解決を行った。

(3) 利用者の状況

一般就労や他の事業所へ利用者が移行したため、契約者数が伸び悩む状態が続いている。通所回数が少ない利用者が多いため、平均利用者数が減少し、安定した事業運営が難しくなっており、利用者の確保が大きな課題となっている。

しかし、目標に向けて体力作りや生活のリズム作りが順調に向上している利用者もあり、販売先も再開できるところも増えたことで、意欲的に活動を行えた面もある。

3 今後について

原材料の高騰により、次年度から価格の改定をせざるを得ない状況となっている。さらなる販売先の確保に努めるとともに、キャッシュレス決済の導入も検討していく必要がある。一般就労や他の事業所へ移行した利用者に加え、50歳代以上で体力低下しつつある利用者の利用日数減少もあるため、安心してやりがいのある事業展開を行い利用者の確保に努めていく。

新規利用者の受け入れについても関係機関等へのチラシ配布などを行いながら進めていく。

4 主な活動実績

(1) 就労支援事業

① 主な就労支援事業収入

事業内容	4年度	3年度	対前年度比
焼き菓子販売	4,086,440 円	4,045,890 円	101.0%
委託事業(もみじの茎切り等)	260,000 円	240,000 円	108.3%
計	4,346,440 円	4,285,890 円	101.4%

② 利用者一人当たりの月額平均工賃額

4年度	3年度	対前年度比
17,104 円	18,045 円	94.8%

③ ボランティア・見学・実習参加状況

ボランティア受入れ延べ人数	0 人
利用見学及び実習受入れ延べ人数	2 人
関係機関等施設見学・実習受入れ延べ人数	6 人
精神保健福祉援助実習受入れ延べ人数	4 人

(2) その他の活動

- ① 施設外活動(市内小学校イベント参加、市内お祭りへの出店参加)
- ② 啓発活動(精神障害者理解促進事業ハートパーク、おもちつき)
- ③ 余暇活動(なかよし会等)
- ④ ガラージセール
- ⑤ 息吹交流会

5 利用者状況

(1) 利用実績総括表

令和5年3月31日現在

項目	4年度	3年度	対前年度比
利用契約者数	16人	15人	106.7%
平均年齢	41.3歳	44.6歳	▲3.3歳
稼働日数	249日	242日	102.9%
延べ利用者数	2,738人	2,710人	101.0%
1日平均利用者数	11.0人	11.2人	98.2%

(2) 障害者福祉手帳所持状況

令和5年3月31日現在(単位:人)

	利用者数	1級	2級	3級	A	B1	身体 3級	なし
男	6	0	3	2	0	0	0	1
女	10	0	4	1	2	1	1	1
合計	16	0	7	3	2	1	1	2